

LOVE SAMEURA

～ 日本一愛される“さめうら湖”の創造 ～

NPO法人さめうらプロジェクト 理事長 辻村幸生



私たちは、通称「らぶさめ」と呼ばれています。さめうら湖を愛し、末永く愛されるフィールドにすることを目指し、「守る」「遊ぶ」「学ぶ」を活動軸として早明浦ダム水源地域の活性化に取り組んでいるNPOです。

■安心安全で快適な環境づくり

「四国のいのち」早明浦ダムは、洪水調節・流水の正常な機能の維持・新規用水の供給や発電などを行う多目的ダムであり、四国4県の人々の暮らしや産業を支える貴重な水資源です。そして、広大な貯水池(湖面)は、フィッシングやウォータースポーツを通じた体験交流等の場として活用されています。



▲さめうら湖



▲さめうら栈橋で記念撮影



▲ボートフィッシング体験



▲バナナボート体験

さめうら湖の利用は、安全利用・環境保全等の観点から「さめうら湖利用計画」「早明浦ダム湖面利用規則」に基づき、事前に利用船舶や乗船者などの情報を登録することとなっています。利用者の管理を行うことによって、ルールの周知徹底、事故防止につなげています。

湖面利用者数は、年会員(有効期限1年間)256名、月会員(有効期限1ヶ月)1,148名、イベントや大会などの一時利用を含むと年間合計延べ3,000名ほどです。(2019年3月時点) 利用種目は90%以上がスポーツフィッシングですが、近年、行政施策によりカヌーの競技力向上や観光プランの一環として手漕ぎボート類の導入計画も進みつつあります。



▲WRMA水難救助講習



▲消防団等との合同練習(海上訓練)



▲海上保安庁合同パトロール(土佐湾)



▲トライアスロン大会警備(中土佐町)

多種多様な利用が混在することによる事故・トラブル等を防ぎ、安心して気持ちよく楽しめる環境にするため、水上安全対策は最重課題です。私たちは、2013年に「シーバードジャパン」に参画し、水上オートバイでの水難救援や安全指導を行う水上警備隊を編制しました。毎年、WRMA(一般社団法人ウォーターリスクマネジメント協会)より講師を招き救助技術の習得に努めています。また、県内外のマリンスポーツ・レジャーに関わる組織やライフセイバー等との合同訓練なども行い、他地域との交流を助けながらスキルアップを図っています。

■Blue☆Lake 三か条 ①親に感謝 ②地域に感謝 ③自分に感謝

当地の高齢化率は40%を超えており、少子化に加え、進学・就職等に伴う若者の流出により人口は減少し続けています。この課題の一助となるべく、さめうら湖で若者たちが挑戦し・活躍できる機会をつくろうと、地元大学生等が地域資源研究グループ「SAMEURA LOVERS(サメウララバーズ)」を結成し、さめうら湖ならではのスポーツ体験イベント開催や地元食材を活用したメニューづくりなどに取り組みました。



▲ウォータースポーツと食のイベント



▲湖畔サイクリング企画



▲ワカサギ釣り



▲SUPレース



▲マウンテンバイク



▲カヌー体験

そして、これらの企画に参加していた後輩世代や彼らの友達なども集まってスタッフとしても協力するようになり、2016年春に地元中高校生を中心とした野外活動サークル「Blue☆Lake(ブレイク)」が誕生しました。

ブレイクのミッションは、“郷土愛を育むことを目的に、自分たちの田舎を楽しむことに挑戦し発信すること！”

フィッシング・バナナボートやフライボードなど水上アクティビティだけでなく、山林をマウンテンバイクで走り自然を知ることができるサイクリング企画など、山間地の特徴を活かしたアウトドアスポーツも展開しています。

このような活動の中で自分の得意なことを見出し、難しいことは仲間同士で助け合い、時に大人達にも相談しながら、家族や友達・地域の大切さを実感していきます。また、参加者に笑顔になってもらえる喜びを体験することが達成感や自信につながり、更に郷土愛を深めるきっかけとなっています。

彼らは、大人と同様に湖上パトロールやイベント時の水上警備にも携わったり、地域のスポーツ大会の進行役や監察などの役割も担います。新聞社やテレビ局の取材対応などにもチャレンジしています。

楽しさだけでなく、あえて高度な役目に挑戦する場を与え、一般的な学生生活では体験できないことを体感することにより、困難に立ち向かえる強さ、臨機応変に対応できる柔軟性、共助しながら向上する団結力を育み、社会に貢献できる人材へと成長していきます。

■地域の財産・日本一働き者のダム

らぶさめは、発足から16年目を迎えます。当初、「早明浦ダムは負の遺産」といった声を耳にすることもあり、地元の人たちが湖面に近寄ることはほぼありませんでした。

私たちは、早明浦ダム水源地域が抱える過疎化など諸問題の解決に向けて、「共育の充実・若者の育成」を最重点課題とし、前述のような活動をとおして地域リーダーを育ててきました。それらの功績が認められダム協会等から表彰していただき、また、ダム湖活用における先進事例として他県から視察等にもお越しいただいています。

交流人口拡大・移住者促進、観光・スポーツ振興等の観点から新たな湖面利用が計画されつつあります。その利点とリスク対策などについて十分に協議し、地域・湖面利用者・関係機関等が力を合わせ共生・協働体制を構築することが重要だと思います。

「四国のいのち・日本一働き者のダム」に感謝し、地域の財産である若者達が輝ける場所＝さめうら湖の健全な環境が継続していけるよう“LOVE SAMEURA”精神で挑戦していきたいと思います。今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



▲さめうら湖でわになろう(イベント)



▲集合写真